

秋田県厚生連 湖東厚生病院 看護部クリニックラダー(ジェネラリスト)

教育理念:豊かな感性、倫理性、自律性を身に付け専門職として成長する

	レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	レベルⅤ	
レベル毎の定義	基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手にあう個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的に判断し看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する	
看護の核となる実践能力	レベル毎の目標	助言を得てケアの受け手や状況のニーズをとらえ安全に看護を実践する。関係者と情報を共有し、ケアの受け手の意向を知る	ケアの受け手のニーズを自らとらえ、状況に応じた看護を実践する。看護展開に必要な関係者を特定し、情報交換の上、ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や状況の特性をふまえてニーズをとらえ、看護を実践する。多職種と連携し意思決定に必要な場を設定できる	ケアの受け手や状況の関連からニーズをとらえ、様々な技術を選択・応用し看護を実践する。多職種での連携を調整し、意思決定に伴うゆがみを理解し選択を尊重できる	ケアの受け手や状況の関連からニーズをとらえ、創造的な看護を実践する。複雑なニーズへの対応や意思決定プロセスにおいて、多職種の力を引き出すよう調整的役割を担う
	ニーズをとらえる力	□助言を受けながらケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □ケアの受け手の状況から緊急度をとらえることができる	□自立してケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □得られた情報を元に、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる	□ケアの受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性をふまえた必要な情報収集ができる □得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	□予測的な状況判断の元、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる □意図的に収集した情報を統合し、ニーズをとらえることができる	□複雑な状況を把握し、ケアの受け手を取り巻く多様な状況やニーズの情報収集ができる □ケアの受け手や周囲の人々の価値観に応じた判断ができる
	ケアする力	□指導を受けながら看護手順に沿ったケアを実践できる □指導を受けながら、ケアの受け手に基本的援助ができる □看護手順やガイドラインに沿って基本的看護技術を用いて看護援助ができる	□ケアの受け手の個別性を考慮しつつ標準的な看護計画に基づきケアを実践できる □ケアの受け手に対しケアを実践する際に必要な情報を得ることができる □ケアの受け手の状況に応じた援助ができる	□ケアの受け手の個別性に合わせて適切なケアを実践できる □ケアの受け手の顕在的、潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる □ケアの受け手の個別性をとらえ、看護実践に反映できる	□ケアの受け手の顕在的、潜在的ニーズに応える為、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる □幅広い視野でケアの受け手をとらえ、起こりうる課題や問題に対して予測的及び予防的に看護実践できる	□ケアの受け手の複雑なニーズに対応する為あらゆる知見・看護および看護以外の分野を動員し、ケアを実践・評価・追及できる □複雑な問題をアセスメントし、最適な看護を選択できる
	協働する力	□助言を受けながらケアの受け手を看護していくために必要な情報が何かを考慮し、その情報を関係者と共有することができる □助言を受けながら、チームの一員として役割を理解できる □助言を受けながらケアに必要と判断した情報を関係者から収集することができる □ケアの受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解できる □連絡・報告・相談ができる	□ケアの受け手を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解したうえで、それぞれと積極的に情報交換できる □関係者と密にコミュニケーションを取ることができる □看護の展開に必要な関係者を特定できる □看護の方向性や関係者の状況を把握し情報交換できる	□ケアの受け手の個別的なニーズに対応するために、その関係者と協力しながら多職種連携を進めていくことができる □ケアの受け手とケアについて意見交換できる □積極的に多職種に働きかけ、協力を求めることができる	□ケアの受け手がおかれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら多職種連携の必要性を見極め、主体的に多職種と協力しあうことができる □多職種間の連携が機能するよう調整できる □多職種の活力を維持・向上させる関わりができる	□複雑な状況(場)の中で見えにくくなっているケアの受け手のニーズに適切に対応するために、知見・看護力以外の関係者に積極的に働きかけることができる □多職種連携が十分に機能するよう、その調整的役割を担うことができる □関係者、多職種間の中心的役割を担うことができる □目標に向かって多職種の活力を引き出すことができる
	意思決定を支える力	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる □アフレネーションが実践できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支えることができる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
	自己教育・研究能力	レベル毎の目標	指導、助言を受けながら自己の教育的課題に気づき自主的な学習に取り組む	自己の教育的課題を明確にし、達成に向け学習する	自己学習に積極的に取り組むと共に、新人や看護学生に対する指導的な役割を実践する	自己のキャリア開発において目指す方向性を明確にすると共に、主体的に研究に取り組み実践現場のロールモデルとなる
自己教育力	□指導、助言を受けながら自らの実践を定期的に見直しできる □職能団体の活動を理解し、その一員であることを理解する	□自らの基本的看護実践を定期的に見直しできる □職能団体に所属し、目的意識を持ち講演会や研修、学会に参加する	□自らの看護実践を定期的に見直しできる □専門職としての継続教育を理解し、学習に取り組むことができる □学生を含めた部署スタッフの教育的活動において指導的な役割を実践できる	□所属部署における看護提供において、主導的役割を示す □所属部署のロールモデルとして自らの実践を定期的に見直しできる □効果的なメンターとして行動できる	□多職種と連携し、看護の専門性を示すことができる □看護の発展に向け、実践した看護を多角的に見直しできる □専門領域や教育的課題達成に向け、学会に参加する	
学び続ける力・セルフコントロールする力・内省力	□自己の課題を発見し、自主的な学習に取り組むことが出来る □ストレスと向き合い助言を得て、前向きに考える事が出来る □自己の行動・出来事を振り返り、修正点を認識できる	□自己の課題達成に向けて、学習活動を展開し、看護実践に研究的に取り組む。□ストレスがかかっても冷静に対応できる□実践を振り返り、修正点を認識する	□長期展望に立ち、自己の学習活動に積極的に取り組む □既存の研究発表を臨床で活用し、自らも臨床につながる研究を行う □常に冷静な議論や対応を行うことが出来る □実践を振り返り改善につなげる事が出来る	□看護の専門性を高め、組織運営に活用できる □主となり研究に取り組み成果を発信できる □困難な状況でも冷静な議論や対応を行うことが出来る □実践を多様な観点から振り返り改善に繋げる	□看護の質を追求し、組織運営に活用できる □研究に対し、助言が出来る □あらゆる場でも冷静に働きかけられる □実践に多様な観点から振り返り、より良い将来を創る行動に繋げる事が出来る	
研究能力	□新人対象の院内研修に参加する	□ケースレポートに取り組むことができる	□部署における研究にメンバーとして関わる □ケースレポートにアドバイスできる	□主研究者として積極的に看護研究に取り組み、まとめることができる	□確かな根拠を示し、実践の質を高めるために看護研究をまとめることができる □看護研究に対し建設的にアドバイスできる	
組織的役割遂行能力	レベル毎の目標	社会人組織人としての自覚を持ち行動する。指導、助言を受けながらチームメンバーの役割を遂行する	組織の中でチームメンバーとしての役割を果たすと共に、部署目標達成に向け、係や委員会活動に参加する	看護チーム全体の状況を捉えチームリーダーやコーディネーターの役割を遂行する。基本的看護実践の指導助言を行う	所属する部署において必要とされる専門的能力を身に付け指導的役割を遂行する	所属をこえ看護部や病院、地域社会から求められる役割を遂行し、課題に対し具体的解決が図れる
	管理能力	□指導、助言を受けながら仕事の優先順位がわかる □医療安全及び感染防止マニュアルを知っている □院内災害対策マニュアルを知っている □災害時の避難経路及び患者搬送が理解できる	□勤務時間帯における仕事の優先順位がわかり時間管理できる □マニュアルを参考にしながら安全・感染防止対策が実施できる □災害時、所属部署のアクションプランに基づき行動できる	□勤務時間帯における仕事の優先順位がわかり時間管理について指導できる □日常的に安全・感染防止対策が実施できる □災害時、所属部署のアクションプランに基づき、指示指導できる	□所属する部署において効率的な看護実践ができるようチームメンバーの配置や業務の調整ができる □災害時アクションプランの作成と評価、その見直しに参画できる □所属部署における定期的災害訓練を計画・実施できる □所属部署における業務改善、基準・手順などの改訂に参画できる	□所属を超えて災害時のアクションプランの作成や評価、見直しに参画できる □所属を超えて定期的な災害訓練を計画・実施できる □多職種や地域社会と協議できる
	チームワーク力・教養育心力・創造し改善する力	□所属部署で、割り当てられた簡単なルーチンの作業を担当できる □看護チームで自己の役割を理解し、チームメンバーの一員として行動できる	□リーダーシップを学びながら、所属部署でプリセプターの役割や係のリーダーとしての役割を遂行する □看護チームで自立してメンバーシップが発揮できる	□看護部内の委員会活動や所属部署での教育・指導的役割を担える □チーム運営ではリーダーシップを発揮できる	□看護部や病院から求められる役割を認識し、チーム医療を推進できる □所属部署の目標達成に向けたマネジメント力を発揮できる	□看護部や病院から求められる役割を認識し、チームの要として、創造的なマネジメント力を発揮できる
	対人関係能力	□社会人、組織人としての自覚を持ち行動できる □チームの一員としての役割を理解し助言を受けながら行動できる □自らの能力を超えた看護ケアの実践について相談できる □日本看護協会発行「看護者の倫理綱領」を理解できる	□組織人として院内ルールを守り行動できる □チームメンバーとしての行動を説明でき、責任をもつことができる □日本看護協会発行「看護者の倫理綱領」に基づき行動できる □係や委員会メンバーとして活動できる	□倫理的視点を持ち課題に気づき発言できる □チームリーダーとしての責任と自覚を持ち行動できる □看護チームの実践を評価しフィードバックできる	□必要に応じ、多職種と相談しながらよりよい看護実践ができる □倫理的課題に対し倫理原則に基づき状況判断し意思決定できる □所属部署の看護実践を評価しフィードバックできる	□倫理的課題が発生した時は、解決に向け多職種を交話し合い、その調整的役割を発揮できる □看護部における実践を評価し、必要に応じ所属を超えた関連部署と協議し調整が図れる